

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名
精神障害者支援論	2	1	オンデマンド科目	青木 聖久
【講義目的】				
<p>本講義では、精神障害者が社会において、よりよく暮らすにあたって、その支援のあり方を学ぶものである。ちなみに、2011年の障害者基本法の改正において、発達障害者が精神障害者の中に含まれることになった。そのことから、本科目で精神障害者と言う場合、発達障害者も含むものである。まず、精神障害者がいかなる社会的支援を活用することによって、等身大の暮らしが実現するかについて考える。とはいえ、「精神障害者」という用語そのものが多様な解釈がなされることから、障害による特徴や課題を提示する。また、精神障害の有無に限らず、人が生き生きと暮らすにあたって、「働く」ということが重要となるため、その関係を示しつつ、一方で、就労支援等についても実践的に迫る。さらに、社会保障制度、とりわけ経済的支援について、生活支援にからめつつ、具体の諸制度を紹介しながら、精神障害者の暮らしについて検討する。そして、精神障害者の「働く」を含めた暮らしの実際や経済的支援等を通して、生活支援とは何か、を明らかにすることが本講義の目的である。</p>				
精神科を持つ病院や福祉施設で精神保健福祉士として勤務した経験のある教員が、精神保健福祉に関する講義を行う。				
到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害者の暮らしの実態やそれに対応する制度や支援技術を説明することができる。 2. 精神障害者や地域の抱える課題の発見と解決に取り組むことができる。 3. 問題把握やなすべき方向性について、論理と根拠に基づいて思考することができる。 				
各回の授業内容				
<p>第1講 精神障害者の暮らし</p> <p>第1章 精神障害による生きづらさとしての特性</p> <p>第2章 当たり前の人としての一般性</p> <p>第3章 社会福祉学から捉えた暮らし</p> <p>第2講 精神障害者の現状と課題</p> <p>第1章 精神障害者の概念</p> <p>第2章 精神科医療への入院・通院や施設利用の実態</p> <p>第3章 当たり前に暮らしを実現するための社会保障制度の活用状況</p> <p>第3講 生活者の視点から捉えた対象者理解①</p> <p>第1章 生活者の視点</p> <p>第2章 統合失調症</p> <p>第3章 気分障害・アルコール依存症 等</p> <p>第4講 生活者の視点から捉えた対象者理解②</p> <p>第1章 高次脳機能障害・発達障害</p> <p>第2章 認知症</p> <p>第3章 精神保健福祉に関する課題</p> <p>第5講 精神保健福祉学から捉えた生活支援論</p> <p>第1章 生活支援論① ～1980年代後半から1990年代前半</p> <p>第2章 生活支援論② ～1990年代中頃から2000年代前半</p> <p>第3章 生活支援論③ ～2000年代前半から中頃まで</p> <p>第4章 生活支援論④ ～2000年代後半から現代まで</p> <p>第6講 経済保障①</p> <p>第1章 経済保障が生活支援に果たす役割</p> <p>第2章 障害年金</p> <p>第3章 生活保護・手当</p> <p>第7講 経済保障②</p> <p>第1章 心身障害者扶養共済制度・労働者災害補償保険</p> <p>第2章 雇用保険・医療保険・医療費助成</p> <p>第3章 生活福祉資金等・障害者総合支援法と介護保険制度</p> <p>第8講 社会参加活動①</p> <p>第1章 働くことの多様性と意義</p> <p>第2章 一般就労・障害者雇用</p> <p>第3章 福祉的就労</p> <p>第9講 社会参加活動②</p> <p>第1章 ピアサポート</p> <p>第2章 余暇活動</p> <p>第3章 働くことが精神障害者の暮らしに果たす役割</p> <p>第10講 地域生活支援体制 ～フォーマルな社会資源～</p> <p>第1章 医療に関する社会資源</p> <p>第2章 保健・福祉に関する社会資源</p> <p>第3章 関連する社会資源</p> <p>第11講 地域生活支援体制 ～インフォーマルな社会資源～</p> <p>第1章 精神障害のある仲間</p> <p>第2章 家族・家族会</p> <p>第3章 ボランティア・市民</p> <p>第12講 暮らしを支える内発的要素</p> <p>第1章 自身の暮らしへの想い</p> <p>第2章 社会から受ける評価</p> <p>第3章 自己有用感</p> <p>第13講 精神障害をもった暮らしとリカバリー</p> <p>第1章 精神疾患との遭遇（ゲスト講師：柳尚孝）</p> <p>第2章 社会資源との出会いと活用 ～ピアサポートを中心に～（ゲスト講師：柳尚孝）</p> <p>第3章 リカバリーへの道（ゲスト講師：柳尚孝）</p>				

- 第 14 講 今と未来を志向した生活支援
第 1 章 ゲストスピーカーの話を通しての考察
第 2 章 クライシスケアシステム
第 3 章 リカバリー
- 第 15 講 実践科学としての生活支援論
第 1 章 ソーシャルワークとしての生活支援
第 2 章 ミクロ・メゾ・マクロの視点
第 3 章 知ることによって広がる暮らしの多様性と可能性

準備学修

現時点において、自分自身のなかで、「精神障害とはどのような概念なのか」「精神障害のある人はいかなる生きづらさがあるのか」という問いに対して、どのように説明できるかについて、事前に考えておいてもらいたい。これらの事柄に取り組むことによって、学習前と学習後の変化を体得することができることになろう。

成績評価の方法

- (1) すべての添削課題に合格後に受験する科目修了試験により合格を判定する。
- (2) 評価基準は、A (100~80 点)、B (79~70 点)、C (69~60 点) を合格、D (59 点以下) を不合格とする。

教材・参考書

この科目には、講義資料（冊子）は付属しません。
参考書として、以下の 2 点を提示する。これについては、授業の中でも随時、引用・参考部分を紹介する。

- (1) 青木聖久編『精神障害者の経済的支援ガイドブック』中央法規出版, 2015
- (2) 青木聖久『精神障害者の生活支援』法律文化社, 2013